

2012年度 同志社大学大学院司法研究科  
入学試験

刑事法  
(刑法)

解答用紙は問題ごとに分かれているので、注意すること。

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 資料として配付する六法はケースに入れて机の上に置き、試験開始の合図があるまで、開けてはいけない。また、六法に傍線等書き込みや折り曲げをしてはいけない。
3. 筆記用具（ペンまたは黒鉛筆（HB または B））、消しゴム、下敷き（ただし、下敷き使用の場合は許可を得ること）、時計（時計機能だけのもので、秒針が音を刻むことがないものに限る）、鉛筆削り（電動式は除く）、その他特に許可したもののほかは使用できない。HB・B以外の硬度の鉛筆やシャープペンシルを使用して判読しにくい文字にならないよう注意すること。これ以外の携帯品は、試験監督者の指示にしたがって試験開始までに所定の場所に置くこと。修正液、修正テープの使用は認めない。なお、ラインマーカーや色鉛筆の使用は、問題検討のために問題紙に限り使用を認める。解答用紙や資料として配布する六法への使用は認めない。
4. 問題紙の本文は、2頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 解答用紙は、第1問が2枚1組、第2問が2枚1組の計4枚である。解答用紙の左側にそれぞれ問題番号が記載されているので、必ず対応する解答用紙に解答を記入すること。
6. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
7. 試験開始後は、終了まで試験場から退室できない。
8. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示にしたがわない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させることがある。
9. 試験中に気分が悪くなる等やむを得ない場合は、黙って手を挙げ、監督者の指示にしたがうこと。
10. 試験終了の合図とともに、すみやかに筆記具を置き、監督者の指示を待つこと。許可があるまで試験場を退室できない。
11. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。
12. 不正行為防止のため、携帯電話やPHS等の通信機器の使用は認めない。電源を切ってカバン等にしまうこと。
13. 耳栓は監督者からの指示が聞こえないので、使用は認めない。
14. 試験時間中の飲食は禁止するが、水分補給のため、ふた付きのペットボトル（ペットボトル以外は不可）に入った飲料を持ち込んで飲むことは認める。ただし、机には置かず、ふたを閉めて足元に置くこと。机上にこぼしたり、水滴によって解答用紙を汚損しないよう十分注意すること。

## 2012年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 入学試験問題 法律科目試験

#### (刑 法)

---

##### 第1問 (配点：50点)

次の事例を読んで、XとYの罪責を述べなさい (ただし、特別法違反を除く。)

##### (事例)

Xは、知り合いのAから現金を盗もうと決意し、Aの勤め先の同僚であるYに対し、「Aは、車の中に多額の現金を置きっぱなしにしているらしいから、Aが車を離れた隙にこっそり金を盗んでやろうと思っているんだ。Aの情報を教えてくれないか。」と依頼した。Yは、これを承諾し、Aが給料日に多額の現金を持ち歩くことや、Aが毎日、勤務先からの帰宅途中にスーパーマーケットの駐車場に自動車を置いて買い物をするなどをXに伝えた。

ある日の夜、Xは、Yから得た情報をもとに、Aの給料日にそのスーパーマーケットの駐車場でAが来るのを待った。そこにAが自動車でやって来て、いつもどおり自動車を駐車場にとめて、現金を自動車の置いたまま店内に入って行ったため、Xは、Aの自動車の鍵をこじ開けようと自動車に近づいた。しかし、忘れ物をしたAがすぐに自動車のところに戻ってきたため、Xは、Aと鉢合わせになってしまった。そこで、Xは、Aに対し、「金を出せ。出さなかったら、痛い目に遭うぞ。」と脅した。Xの脅しは、恐怖感を抱かせるものではあったが、普通の人なら抵抗できなくなるほど強いものではなかった。しかし、Xは、Aが極端に臆病な者であることを知っていたことから、Aが恐怖のために抵抗できなくなると思っていた。実際に、Aは、恐怖心から抵抗不能の状態となり、Xに現金を差し出した。Xは、その現金を受け取り、その場から逃走した。

## 2012年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 入学試験問題 法律科目試験

#### (刑 法)

---

##### 第2問 (配点：50点)

次の事例を読んで、XとYの罪責を述べなさい(ただし、特別法違反を除く。)

##### (事例)

Xは、大学院受験を控え、ストレス発散から面白半分に、自宅のパソコンを通してインターネット掲示板に、そのような意図がないのにJR西日本の某駅において1週間以内に無差別殺人を実行する旨の虚構の殺人事件の実行を予告し、不特定多数の者に閲覧させたところ、同掲示板を閲覧した者が多数その内容を警察に通報した。そのため、通報を受けた所轄警察署の警察官は、2日間にわたり同駅構内等への出動、警戒等の徒勞の業務に従事し、警ら、立番業務その他の本来業務を遂行することが困難になった。

Xは、同掲示板を見た友人から、同虚構の殺人予告を書き込んだのはXではないかと噂になっていることや、警察への通報が相次いでいることを伝えられて、警察の捜査が身辺に及び始めていることを知った。そこで、Xは、Xの弟の大学生Yに事情をすべて打ち明け、「まもなく警察に発覚すると思うが、警察に叱られる程度で済むから、インターネット上の掲示板に書き込んだのはお前であると警察に言ってほしい」等と言って命じた。これを聞いたYは驚いたが、兄の将来を慮って、やむなく警察に出頭し、警察官に対し、「無差別殺人予告をネット上に書き込んだのは僕です。」と虚偽の自供を行った。

2012年度 同志社大学大学院司法研究科  
入学試験

刑 事 法  
(刑事訴訟法)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 資料として配付する六法はケースに入れて机の上に置き、試験開始の合図があるまで、開けてはいけない。また、六法に傍線等書き込みや折り曲げをしてはいけない。
3. 筆記用具（ペンまたは黒鉛筆（HB または B））、消しゴム、下敷き（ただし、下敷き使用の場合は許可を得ること）、時計（時計機能だけのもので、秒針が音を刻むことがないものに限る）、鉛筆削り（電動式は除く）、その他特に許可したもののほかは使用できない。HB・B以外の硬度の鉛筆やシャープペンシルを使用して判読しにくい文字にならないよう注意すること。これ以外の携帯品は、試験監督者の指示にしたがって試験開始までに所定の場所に置くこと。修正液、修正テープの使用は認めない。なお、ラインマーカーや色鉛筆の使用は、問題検討のために問題紙に限り使用を認める。解答用紙や資料として配布する六法への使用は認めない。
4. 問題紙の本文は、1頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 解答用紙は、3枚1組である。
6. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
7. 試験開始後は、終了まで試験場から退室できない。
8. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示にしたがわない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させることがある。
9. 試験中に気分が悪くなる等やむを得ない場合は、黙って手を挙げ、監督者の指示にしたがうこと。
10. 試験終了の合図とともに、すみやかに筆記具を置き、監督者の指示を待つこと。許可があるまで試験場を退室できない。
11. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。
12. 不正行為防止のため、携帯電話やPHS等の通信機器の使用は認めない。電源を切ってカバン等にしまうこと。
13. 耳栓は監督者からの指示が聞こえないので、使用は認めない。
14. 試験時間中の飲食は禁止するが、水分補給のため、ふた付きのペットボトル（ペットボトル以外は不可）に入った飲料を持ち込んで飲むことは認める。ただし、机には置かず、ふたを閉めて足元に置くこと。机上にこぼしたり、水滴によって解答用紙を汚損しないよう十分注意すること。

## 2012年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 入学試験問題 法律科目試験

#### (刑事訴訟法)

---

次の事例について、問に答えなさい。

(事例)

- 1 司法警察員Pは、裁判官から、Xの自宅に対する覚せい剤取締法違反による捜索差押許可状の発付を得て、X方へ赴き、Xの自宅の捜索を開始した。
- 2 捜索の当時、X方には、Xは不在で、Xの妻Yと、偶々X方を訪れていたZがいた。
- 3 Pは、Yを立会人としてXの自宅を捜索したものの、捜索差押許可状に差し押さえるべき物として記載された「覚せい剤、密売先メモなど本件に関係するもの」を発見するに至らなかった。
- 4 ところが、Yが捜索中ずっとポストンバッグを手に持っていたので、不審に思ったPが、曖昧な発言を繰り返すYの手をはねのけて、当該ポストンバッグを取り上げ、中を捜索したところ、覚せい剤の密売先を記載したと思われる手帳を発見したので、上記捜索差押許可状によりこれを差し押さえた。
- 5 Pは、Zが、捜索中、そわそわしているのを見て、覚せい剤を隠し持っているのではないかと疑い、渋るZの抵抗を排除して、上記捜索差押許可状により、Zの着用していた上着の内ポケットを捜索したところ、Zの内ポケットから乾燥大麻約5グラムが見つかった。そこで、Pは、Zを大麻取締法違反罪の現行犯人として逮捕し、当該乾燥大麻を差し押さえた。

第1問 (配点：25点)

(事例) 上記4の捜索及び差押えは、適法か。

第2問 (配点：25点)

(事例) 上記5の捜索及び差押えは、適法か。